

上手なお金の 貯め方・ 増やし方

How to save and grow money wisely

はじめに

人生100年時代を迎え、長く安定した生活を送るために資産形成や老後の資金計画の重要性はますます高まっています。特に、現代の多忙なビジネスパーソンにとって、資産運用は時間との戦いです。しかし、適切な戦略と知識を持てば、限られた時間の中でも効果的な資産形成が可能となります。本書では、そのための手助けとなる基本から解説していきます。

1章では、資産形成と運用の基本を押さえます。なぜ資産形成が必要なのか、その実行のためにはどのような考え方やスキルが必要なのかを明確にします。また、投資に関する基礎知識や種類、そして賢い投資の方法を解説します。2章では、多忙なビジネスパーソンが簡単に取り組める税制優遇制度である「NISA」の制度設計や活用方法および「iDeCo」の概要についても紹介します。これらの制度を適切に使うことで、初めての資産運用でも効率的に資産を増やすことが可能となります。

3章から5章では、年金、相続、贈与、給付金に焦点を当てます。人生100年時代において、老後の資金計画や家族への財産の継承は不可欠です。年金制度の仕組みや受給開始年齢・要件、さらには相続や贈与の基礎知識や手続きなど、知っておくべき知識について解説します。これらのテーマについて理解を深めることで、将来の不安を軽減し、安心した生活を送るための準備を整えることができます。

本書を通じて、読者が忙しい現代社会の中でも資産形成と運用に取り組むための基礎知識を習得し、将来に向けた準備と計画を進めるためのご参考となることを願います。

上手なお金の貯め方・増やし方

はじめに	3
------------	---

I 部 人生100年時代を生き抜くための資産形成と運用

1 章 今から始める資産形成と運用の基本

1. 資産形成、資産運用とは	6
2. 投資に関する基礎知識	8
3. 投資の種類と概要	10
4. 賢く簡単に投資を行う方法	12
5. 税制優遇制度を活用した投資 — NISAやiDeCoの非課税制度を活用する	14
6. ライフイベントから資産形成・運用を考える	16
7. 投資信託を資産運用に活用する	18
8. インフレに勝つ資産運用	20
9. 年代別資産運用 — 20代から50代までの資産運用のポイント	22

2 章 大きく改正されたNISAを始めよう

1. 新しいNISA制度を理解する	24
2. 新NISAの特徴	26
3. 金融機関の選び方と始め方	28
4. 新NISAつみたて投資枠の対象商品の選び方	30
5. つみたて投資枠と成長投資枠の使い方	32
6. つみたて投資枠と成長投資枠の運用の基本	34
7. NISAをさらにお得に活用する	36
8. NISAとiDeCoを活用する	38
Column ① 日本は投資後進国?	39

II 部 ゼロからわかる「年金」「相続・贈与」「給付金」の仕組みと手続き

3 章 公的年金の仕組みと増やし方

1. 基本的な年金の仕組み	42
2. 私的年金と受給開始年齢	44
3. 年金の時効と受給要件	46
4. 加入方法による年金の増やし方①	48
5. 加入方法による年金の増やし方②	50
6. 受給方法による年金の増やし方	52

4 章 相続・贈与の基本と手続き

1. 相続人になる人の範囲	54
2. 相続人の確かめ方と相続回避法	56
3. 遺言の効力と相続人の遺留分	58
4. 相続スタート直後に必要な手続き	60
5. 遺言書の検認と相続財産	62
6. 相続税の計算・申告・納付	64
7. 生前贈与にかかる税金	66
8. 生前贈与の課税方式の改正点	68
9. 贈与税の主な非課税制度	70

5 章 国や自治体・雇用保険の給付金

1. 知らずに損する給付金が多い	72
2. リフォームや省エネ住宅取得でもらえる給付金	74
3. 雇用保険の基本的な給付金	76
Column ② 社会保険制度は知らないで損することばかり!?	79



部

人生100年時代を 生き抜くための 資産形成と運用

今から始める資産形成と運用の基本

1 資産形成，資産運用とは

資産形成・運用の意味と必要性について

「金銭は自由を与えてくれる」という言葉があるように、お金は人々にとって重要な役割を果たします。しかしながら、多くの人々は生活費や娯楽費を抑えることでお金を貯めることができますが、本格的な**資産形成**や**資産運用**については難しいと感じているかもしれません。人生において資産形成や資産運用を行うことは非常に重要です。会社員の場合、退職後の生活や不測の事態への備えが必要となります。そして、資産運用を行うことで、将来的な収入を増やせるため、キャリアアップや生活レベルの向上にもつながります。

しかし、資産形成や資産運用については知識が必要であり、誤った判断や行動をすることで損失を被るリスクも存在します。ここでは会社員が資産形成や資産運用を行う上で必要な知識やポイントについて解説し、安全かつ効果的な方法を紹介していきます。

資産形成・運用を始める時期は、できるだけ早いほうがよいとされています。理由は、時間が経過するにつれて投資や運用による利益が複利で積み上がっていくため、より多くの利益を得ることができるからです。つまり、資産運用を始めることで、**お金が成長しやすい時間を確保**することができます。

具体的な時期は、最初の収入を得るようになったとき、定期的な収入が安定しているとき、教育資金や老後の資金など将来の資金ニーズが見えてきたときが適しています。ただし、投資や運用にはリスクがあるため、収入やライフスタイルに合わせた運用計画を立て、慎重に進めることが重要です。以降、働く人の資産形成および資産運用について、長期的な視点で行う個人の経済行動という意味で「**投資**」という言葉も使用していきます。

リスクとリターン

リスクとリターンは投資において重要な概念であり、投資に伴って予想される損失や得られる利益を示す指標です。投資には多様なリスクがあり、高いリターンを狙うには、高

図表 1-1 貯蓄、投資、投機の特徴

項目	貯蓄	投資	投機
目的	将来の備えや安全性の確保	将来的な利益追求	短期的な利益追求
リスク	低い	高い	非常に高い
収益性	安定的な収益が得られる	長期的に見ると高い収益が期待できる	短期的に見ると高い収益が期待できる
運用例	普通預金、定期預金、積立定期預金	株式や債券、投資信託、不動産の投資	商品取引や為替、仮想通貨の売買

※貯蓄はリスクが低く安定した収益が期待できるが、投資や投機はリスクが高い反面、長期的には高い収益が期待できる。
資産形成においては、自分の目的やリスク許容度に合わせて、貯蓄、投資、投機のどれを選ぶかを慎重に考える必要がある

いリスクを取ることも必要です。しかし、自分が許容できるリスクを超える投資は避けるべきで、自分のリスク許容度を明確にし、その範囲内で運用することが大切です。

貯蓄、投資、投機の違いを理解する

貯蓄、投資、投機は、お金をどのように使うかに関する概念です。以下にそれぞれの違いを説明します（図表 1-1）。

- 1. 貯蓄：**貯蓄とは、収入から支出を差し引いた残りのお金を蓄えることを指します。つまり、将来のためにお金を貯めることです。貯蓄によって得られる利息や資産の増加によって、将来に備えた経済的な安定を確保することができます。貯蓄には、**普通預金**や**定期預金**、**積立定期預金**などがあります。
- 2. 投資：**投資とは、将来の利益を期待して、お金を事業や資産に投入することを指します。投資によって、資産の増加や将来の収入の確保を目指します。投資には、**長期投資**としての**株式運用**や**債券**、**投資信託**、**不動産**などがあります。投資は、適切なリスク管理を行い、長期的な視点で行うことが重要です。
- 3. 投機：**投機とは、将来の価格変動を予想して、短期的な売買をすることを指します。つまり、**短期売買**を目的とした**株式**や**商品取引**、**為替（F X）**などの金融商品を取引することです。投機は、将来の価格変動を正確に予測することが困難であり、リスクが高いため、慎重な判断が必要です。

以上のように、貯蓄は将来のためのお金の蓄え、投資は将来の収益を期待したお金の運用、投機は短期的な価格変動を予想したお金の取引を指します。それぞれの特徴やリスクを理解し、適切な方法でお金を使うことが大切です。これから投資を考える人は、まず、**貯蓄と投資を基本として資産運用を計画**しましょう。

2 投資に関する基礎知識

投資で覚えておきたい6つのポイント

投資に必要な知識は非常に広範囲にわたりますが、まずは6つの項目をリストアップするので、これらの基本事項を押さえておきましょう。

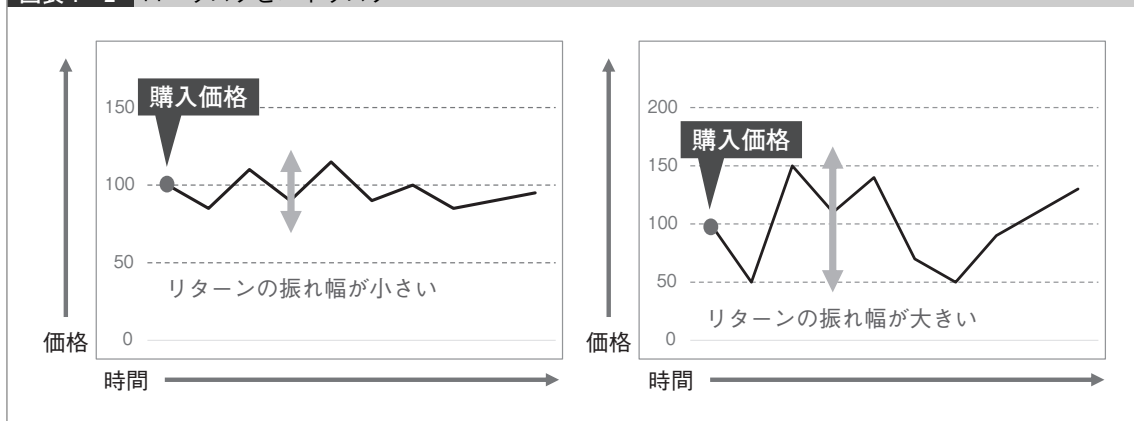
1. リスクとリターンの関係

投資にはリスクがつきものであり、リスクを取ることでリターンが得られます。高いリターンを得るためには、高いリスクを取る必要があります。

投資におけるリターンとは、「**資産運用を行うことで得られる収益**」を意味します。一方、リスクとは、一般的な「危険なこと」「避けるべきこと」という意味ではなく、「**リターンが不確実な（予測できない）こと**」を表しています。不確実の度合い（振れ幅）が大きいことを「**ハイリスク**」、小さいことを「**ローリスク**」といい、リターンとは比例します（図表1-2）。

つまり、ハイリスクとは、「大きく収益が得られるかもしれないし、反対に大きく損失が出るかもしれない」という意味で使われます。投資先の選定にあたっては、自分がどの程度のリスクを取れるかを把握し、リスクとリターンのバランスを考えることが重要になるのです。

図表1-2 ローリスクとハイリスク



2. 投資商品の種類と専門用語

投資商品には、株式、債券、不動産、商品、為替など、多くの種類があります。それぞ